

「学校教育実践ジャーナル (Journal of School Education Practices)」の投稿論文は、必ず以下の要領に従って作成・執筆すること。

【投稿論文の作成方法】

1. 提出原稿

「研究論文」、「実践論文」は、原稿（正本）の他に、査読用原稿2部（著者名、所属を伏せ字（■）にしたもの）の合計3部を作成する。また、これとは別に、「表題（和文・英文）」、「著者名」、「所属及び所在地（連絡先及びその電話番号、メールアドレス等）」を記載した「連絡票」を付す。

2. 原稿の構成

投稿原稿の構成は、和文の場合、「表題」、「著者名」、「著者所属」、「表題（英文）」、「著者名（英文）」、「著者所属（英文）」、「Abstract（要約）」、「キーワード（Keywords）」、「本文（図、表等を含む）」、「引用・参考文献」の順とする。原稿はA4版で2段組み（1段あたり24字×47行）の横書きとし、上下25mm、左右20mm程度の余白を設ける。英分の場合、「Title」、「Name(s) of Author(s)」、「Institution」、「Abstract」、「Keywords」、「Text (including Figure and Table)」、「References」の順とする。原稿はA4版で2段組み（1段あたり24字×47行）の横書きとし、上下25mm、左右20mmの余白を設ける。本文は、「はじめに（問題の所在、これまでの経緯、背景、緒言など）」、「研究の目的」、「研究の方法」、「結果」、「考察」、「今後の課題」、「まとめ」など、各研究分野の論文を参考に本文を構成する。適宜、図表を挿入しても良い。1ページ目の体裁は以下の通りとし、この部分については一段組み（47字×42行）で、上下25mm、左右20mmの余白を設ける。構成については、最新号の学会誌の例を参照すること。

〇〇小学校における□□の教育的効果に関する事例研究

—◇◇指導法を試行して—

〇〇〇〇（△△大学）、□□□□（△△小学校）

Case Study on Educational Effect of □□ in 〇〇 Elementary School
: A New Approach to ◇◇ method

〇〇〇〇（△△University）、□□□□（△△ Elementary School）

Abstract

The purpose of this study is . . .

.

. We conclude that

Keywords : Curriculum, ◇◇ method, Elementary School, Evaluation, Teaching materials

1. はじめに

.

.

3. 原稿の書式

原稿は電子媒体（ワード推奨）で作成し、文章は口語体「・・・である」調とし、学術用語以外は常用漢字及び現代かなづかいで記載する。本文は適正な書式のレイアウトとともに、禁則処理がなされているものとする。

4. 字体

和文の場合、「表題」は14ポイントのゴシック体（副題がある場合は12ポイントのゴシック体で、—○○○—）、「著者名」、「著者所属」は12ポイントのゴシック体、「Abstract（要約）」、「本文」、「引用・参考文献」は10.5ポイントの明朝体、「キーワード（Keywords）」は10.5ポイントのゴシック体とする。英文の場合、「表題」は14ポイントのTimes New Roman体（副題がある場合は12ポイントのTimes New Roman体で、:○○○）、「著者名」、「著者所属」は12ポイントのTimes New Roman体、「Abstract」、「本文」、「引用・参考文献」は10.5ポイントの明朝体、「Keywords」は10.5ポイントの明朝体とする。

数字は1字の場合は全角で、2桁以上の場合は半角とする。アルファベットについては半角とする。また、読点は「、」（全角のコンマ）、句点は「。」（全角の丸点）とする。

5. 見出し

本文は、章、節などに区切り、見出しをつける。章には1, 2, 3・・・, 節には(1), (2), (3)・・・の見出し番号をつけ、ゴシック体とする。

6. Abstract（要約）

「Abstract（要約）」は、論文の内容を的確にまとめ、「研究論文」の場合は英文（200 Words以内）で、「実践論文」の場合は英文（200 Words以内）または和文（500字以内）で1段組とする。

7. キーワード（Keywords）

「キーワード（Keywords）」は、「Abstract（要約）」の下に、「Abstract（要約）」が英文の場合は英語で、和文の場合は日本語で、それぞれ5語以内でつけることができる。「キーワード（Keywords）」は、英文の場合はアルファベット順、和文の場合は五十音順に並べる。

8. 英文校閲

「表題」、「要約」などの英文は、投稿前に必ずネイティブ・スピーカーの英文校閲を受けているものとする。

9. 引用・参考文献

文献の引用は、本文が冗長になることを防ぐため、特別な場合を除き、原文をそのまま長く引用することは避ける。引用・参考文献のリストは、原稿の最後に著者名のアルファベット順に一括して記載する。共著の場合は、全ての著者名を記載する。

(1) 学術論文の場合。

北野大地・南海洋（2017）、「学校教育実践に関する研究」、『学校教育実践ジャーナル』, 21(1), 21 - 28

Author, A. B., Author, C. D. (2017), Title of Article. *J. Sch. Edu.* 21(1), 45-49

(2) 書籍の場合。

北野大地（2017）、『学校教育実践』, 北教出版, 34 - 52

北野大地（2017）、『学校教育実践』, 南海洋編, 北教出版, 16 - 31

Author, A. B. , Author, C. D. (2017), Title of Book. Publisher, City, p13-21

Author, A. B. , Author, C. D. (2017), “Title of Article” . *Title of Book* (Ed. by Author, E. F. , Author, G. H.), Ed. 2, Vol3. Publisher, City, p13-21

(3) 訳書の場合。

Kitano, Daichi (2017), 南海洋訳, 『学校教育思想史』, 北教出版, 124 - 159

なお、本文中の記載は、次の例のように記載し、共著者が3名以上の場合は「・・・ら (・・・et. al)」とする。

引用・参考文献の著者が1名の場合。・・・(北野, 2017)。北野(2017)は・・・。

引用・参考文献の著者が2名の場合。・・・(北野・南海, 2017)。北野・南海(2017)は・・・。

引用・参考文献の著者が3名以上の場合。・・・(北野ら, 2017)。北野ら(2017)は・・・。

また、オンラインからの引用はできる限り避けるものとし、やむを得ない場合は、URLとともに閲覧した年月日を記載すること。

例) 日本学校教育実践学会「学会の方針」, <http://jissen2.web.fc2.com/policy.html> (2017.9.28)

10. 図表

図(写真を含む)と表は、必要な場合においてのみ使用し、鮮明に読み取れるものにする。図表を作成する文字は、明朝体が望ましい。図表には、図1, 図2・・・, 表1, 表2・・・のように番号をふり、ゴシック体のタイトルをつける。図表のタイトルは、図の場合は下に、表の場合は上につける。図表には、必要に応じてキャプション(説明文, 註)をつけることができる。

11. 付表

調査に用いたアンケート用紙などは、本文中の図表ではなく、原稿末に適宜縮小して「付表」として掲載することができる。ただし、この場合も投稿論文の規定ページ数に含める。

12. 電子媒体の提出

投稿論文が採用された際には、本誌の印刷用に原稿の電子媒体(ワードファイル, 図表など)を提出する。この際、本文の図表が鮮明でない場合は、図表のファイル提出を依頼することがある。